



# 報 告 書

## 「国際的人材育成」に関する調査

令和2年3月31日

一般社団法人 日本歯科医学会連合

国際活動委員会

# 目次

---

I. 本調査の目的	P2
<hr/>	
II. 調査方法	P2
<hr/>	
III. 調査結果	P3
<hr/>	
IV. 考察と提言	P18
<hr/>	
資料（質問調査票）	P19

## I. 本調査の目的

グローバル時代において日本の歯学研究・歯科臨床・歯学教育を海外に発信することは、ますます重要になってきており、各会員学会の国際化のみならず次世代を担う若手歯科医師や歯学研究者の国際舞台での活躍を後押しすることは、各会員学会においても関心が高い事項であると思われる。

日本歯科医学会連合の国際活動委員会では、これまで外国人留学生が学会活動に参加しやすい環境づくりのための情報収集や意見交換を目的としたフォーラムの開催や、各会員学会の活動を世界に紹介するための支援の一環として、学会紹介文の英文化などを行ってきた。

2019年度の事業として、さらなる支援のあり方を検討するために、各会員学会が学会の国際化や、現在入会している学会員や将来の学会員に対して、国際的人材育成に関してどのようなビジョンを持ち、今後国際的人材育成を行おうとしているのかに着目した調査を実施し、会員学会間で情報共有を図ることを目的に本調査を行った。

## II. 調査方法

国際活動委員会で質問調査票（資料）を作成し、日本歯科医学会連合に所属する25の正会員、18の準会員、計43の会員学会あてに日本歯科医学会連合の住友理事長および国際活動委員会の森尾委員長の連名で、オンラインによる調査の依頼を行った。オンライン調査に参加し、回答の得られた会員学会について結果を集計し、報告書にまとめた。

### Ⅲ. 調査結果

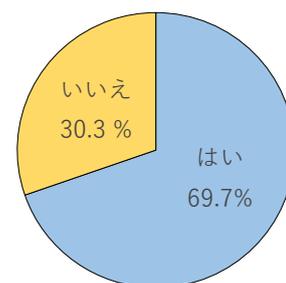
正会員 25 のうち 22 学会（回収率、88.0%）、準会員 18 のうち 11 学会（回収率 61.1%）から、調査への回答が得られた（全体回収率 76.7%）。

#### 調査参加学会（計 33 学会）

	正会員		準会員
1	歯科基礎医学会	1	日本歯科心身医学会
2	日本歯科保存学会	2	日本臨床歯周病学会
3	日本補綴歯科学会	3	日本歯科審美学会
4	日本口腔外科学会	4	日本歯科東洋医学会
5	日本矯正歯科学会	5	日本顎変形症学会
6	日本口腔衛生学会	6	日本顎顔面補綴学会
7	日本歯科理工学会	7	日本顎咬合学会
8	日本歯科放射線学会	8	日本磁気歯科学会
9	日本歯周病学会	9	日本外傷歯学会
10	日本歯科麻酔学会	10	日本口腔腫瘍学会
11	日本歯科医史学会	11	日本口腔顔面痛学会
12	日本歯科医療管理学会		
13	日本歯科薬物療法学会		
14	日本障害者歯科学会		
15	日本老年歯科医学会		
16	日本歯科医学教育学会		
17	日本口腔インプラント学会		
18	日本臨床口腔病理学会		
19	日本接着歯学会		
20	日本歯内療法学会		
21	日本レーザー歯学会		
22	日本スポーツ歯科医学会		

## 1. 国際化・国際事業に関する委員会の有無

国際関連委員会の有無	学会数	%
はい	23	69.7%
いいえ	10	30.3%
計	33	100.0%

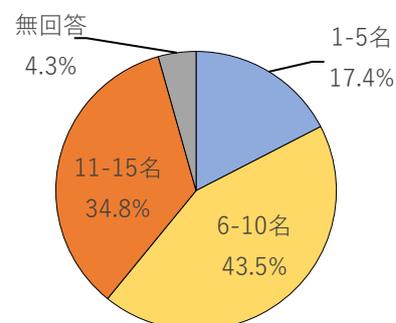


### 1-1 上記国際関連委員会を有する場合、委員会の名称について

委員会名	学会数	%
国際交流委員会	11	47.8%
国際渉外委員会	6	26.1%
国際学術委員会	1	4.3%
国際委員会	1	4.3%
アジア国際外傷歯学会委員会	1	4.3%
教育国際化推進委員会	1	4.3%
学術研究委員会	1	4.3%
ISO 対策委員会	1	4.3%
計	23	100.0%

### 1-2 構成人数

委員会の構成人数	学会数	%
1-5名	4	17.4%
6-10名	10	43.5%
11-15名	8	34.8%
無回答	1	4.3%
計	23	100.0%



## 1-3 委員会の活動内容

### 国際学会・他国学会との交流や連携、情報共有

- ・ 当該分野に関する学会間の交流や、国際学会についての情報共有、また海外施設への若手学会員の研修奨励
- ・ 他国歯周病学会との交流、他国共催事業の支援
- ・ 国際学会との連携
- ・ 国外の関連諸団体との連携及び交流事業への参画
- ・ 歯周病学における国際的な学术交流に関して、その現状を検証しつつ、広く海外に発信し、もって、内外の歯周病学研究者間の双方向性学术交流を促進する方策を審議する。
- ・ 口腔保健における国際的な学术交流に関して、その現状を検証しつつ、韓国をはじめとする諸外国と学術的活動と考え方、知識の交換を通じて、双方向性学术交流を促進する方策を審議する。
- ・ スポーツ歯学における国際的な学术交流に関して、その現状を検証しつつ、諸外国と学術的活動と考え方、知識の交換を通じて、双方向性学术交流を促進する方策を審議する。
- ・ 日本国内外で開催される接着歯学に関する国際学会との連携
- ・ 審美関連の国際学会への組織加入・役員派遣、海外の審美関連学会との姉妹協定締結・演者交流・論文交流
- ・ 歯科理工学に関する分野（歯科材料・器械および歯科医療技術）の進歩と発展を図り、もって国民の健康と福祉の増進に寄与するための国際交流を推進する業務
- ・ 国内外の関連学会との交流
- ・ 海外の歯科医学教育学会との交流と日本の歯科医学教育に関する情報発信
- ・ 国外における歯科審美関連団体との交流及び情報交換
- ・ 台湾矯正歯科学会（TAO）、国際矯正歯科連盟（WFO）、アジア太平洋矯正歯科学会（APOS）などとの交流促進、学術大会における若手矯正研修医（レジデント）の相互交流の促進を図っている。
- ・ 海外の学術団体との学术交流
- ・ 国際学会や他国の関連する学会に出席、発表し、交流する。
- ・ 歯科麻酔領域に関わる諸外国との連携・交流促進、国際関連団体との協力・支援 等

## 国際的研究協力の推進

- ・ 会員の老年歯科医学に関わる研究ならびに会員の知識の普及に貢献するとともに、それにより高齢者の保健・医療の進歩・発展を図り、もってわが国の学術の発展と国民の福祉に寄与することを目指して、国際的な研究協力の推進に関わる業務

## 国際学会・委員会・シンポジウム等の開催

- ・ 国際学会の開催
- ・ アジア諸国 8 か国による外傷歯学に関する教育・研究の臨床分野委員会を 2 年に 1 回学会と並行して開催している。本学会の会則にしたがって、2004 年から現在に至るプログラム・抄録集は存在する。世界で認知されている国際外傷歯学会に出席し、国際外傷歯学会から本学会雑誌に News Letter が届いている。
- ・ 海外の関連団体とのシンポジウムの企画・運営 等

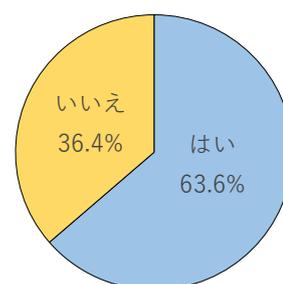
## 国際規格の維持等

- ・ 国際規格 ISO 13017 Dentistry — Magnetic attachments の策定、取得、維持

## 2. 海外の学会との協定締結や交流活動

33 学会中 21 学会が海外の学会と協定を締結していると回答した（63.6%）。協定締結の相手国としては、韓国をはじめとするアジア諸国が多く、米国、欧州にもみられた。

海外の学会との協定締結	学会数	%
はい	21	63.6%
いいえ	12	36.4%
計	33	100.0%



## 2-1 締結国（地域）

1つの国・地域		複数の国にまたがる学会	
韓国	11	アジア・太平洋	4
米国	5	欧州	1
台湾	5	世界	5
中国	2		
ドイツ	1		
フィリピン	1		
モンゴル	1		
ネパール	1		
タイ	1		
計	28	計	10

## 2-2 交流内容

### 学会（シンポジウム）の共同開催、相互参加促進や情報共有

- ・ 国際学会への代表参加、学会情報の共有、過去には共同で学会を開催
- ・ 日本口腔腫瘍学会学術大会の案内の送付と発表の勧誘
- ・ 合同シンポジウムの開催
- ・ 大会共催、大会の相互参加
- ・ それぞれの学術大会での交流（相手先学術大会参加費無料）と合同理事会 2 回/年開催（それぞれの国で）
- ・ 共同で学会を開催、お互いの学会に会員を派遣
- ・ 両国の学術大会時の交流、共同セッション等
- ・ 共同で学会を開催
- ・ 韓国歯周病学会、中国牙周病学会ともに協定に基づき、隔年で演者を派遣している。アジア・太平洋歯周病学会：2年に1回開催する大会に参加している。アメリカ歯周病学会：2年に1回共催大会を開催している。
- ・ 学会誌・学会やシンポジウムに関する連携
- ・ 相互の学会への演者派遣、相互の学会誌での論文投稿

- ・ 学会誌の交換ならびに1年毎に総会・学術大会に講演者を相手学会から交互に招待する。
- ・ 共同で学会を開催
- ・ 学術大会、ビジネスミーティングに参加、協定の締結
- ・ 共同で学会を開催，協定を締結している学会への演者の派遣
- ・ 会員の参加、国際外傷歯学会の会長によるご挨拶、本学会会員による国際外傷歯学会への発表
- ・ 大韓矯正歯科学会とは2年に一度相互に日韓ジョイントミーティング（ジョイントシンポジウムに名称変更予定？）を開催、台湾矯正歯科学会とはそれぞれの年次学術大会にレジデント2名ずつを相互に派遣しポスター発表あるいは口演を行っている。
- ・ 学会での講演・演題発表、合同会議開催、学術・医療協力
- ・ 共同で学会を開催する。
- ・ 共同で学会を開催
- ・ The International Association of DentoMaxilloFacial Radiology (IADMFR) の委員会に歯科放射線学会からも多くの委員が参加している。また学会に多数参加している。Asian Academy of Oral and Maxillo-Facial Radiology は Secretary General を含め日本歯科放射線学会が主導している。
- ・ 隔年で学術大会時に日韓シンポジウムの開催
- ・ scientific meeting 開催(IADR)、加盟国持ち回りでの国際学会の開催 (IFDAS、FADAS)
- ・ 本会がリーダーシップをとり、下記の国際事業を諸外国と実施している。
  - ⇒ 国際歯科材料会議 (IDMC) 3~4 年間隔程度の慣例事業として、アジア諸外国を中心に世界各地より歯科材料・器械の研究に携わる研究者や臨床家等の研究発表と討論の場を企画している。
  - ⇒ Asian Network of Dental Materials Societies (ANDeMS) アジア地域における歯科理工学関連学会を束ね、同地域全体の学術研究の発展を牽引する組織を構成している。

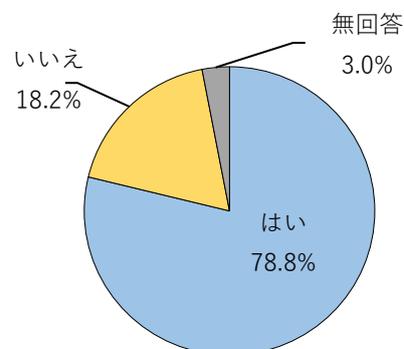
#### **共同で学術雑誌を刊行、共同での研究や情報発信**

- ・ J Oral Patho Med が共同の Official Journal となっている。また、IAOP での学会を協力している。
- ・ スポーツ歯科医学に関する共同研究ならびに学術情報の世界発信に向けた国際英文誌 IJSD の有効活用
- ・ 学術講演会の講師受け入れ及び派遣、国際誌の合同発行など

### 3. 学術大会での英語による発表

学術大会において、英語で発表できるプログラムの有無について聞いたところ、「はい」が26、「いいえ」が6であった。

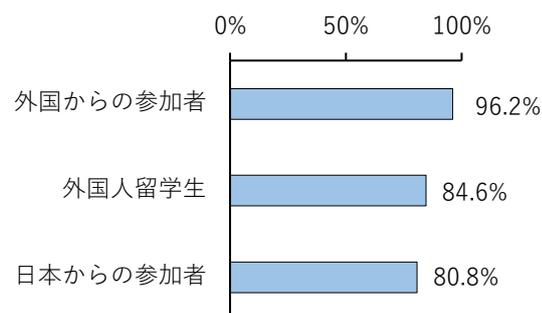
英語での発表の可否	学会数	%
はい	26	78.8%
いいえ	6	18.2%
無回答	1	3.0%
計	33	100.0%



「はい」と回答したうち、どのような演者が英語で発表することを想定しているかとの質問については、外国からの参加者 25、外国人留学生 22、日本からの参加者 21 と回答していた。

英語での発表が想定される演者	学会数	%
外国からの参加者	25	96.2%
外国人留学生	22	84.6%
日本からの参加者	21	80.8%
英語で発表可能な学会の総数	26	100.0%

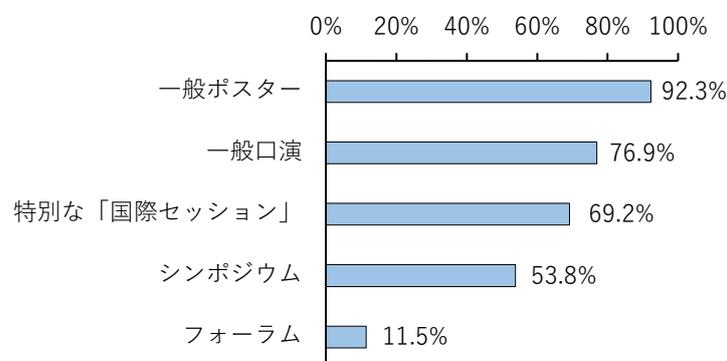
(複数回答)



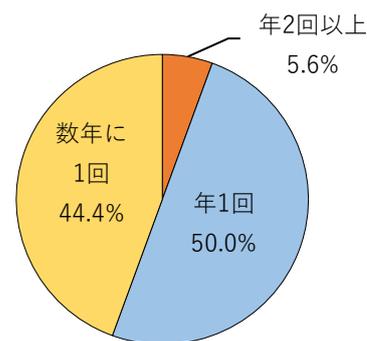
また、英語で発表できるプログラムの形式については、一般ポスター24、一般口演 20、限られた（特別に設けられた）「国際セッション」18、シンポジウム 14、フォーラム 3 であった。また、「国際セッション」を開催している場合の頻度については、年 2 回以上 1、年 1 回 9、数年に 1 回 8 であった。

英語で発表可能なセッション	学会数	%
一般ポスター	24	92.3%
一般口演	20	76.9%
特別な「国際セッション」	18	69.2%
シンポジウム	14	53.8%
フォーラム	3	11.5%
英語で発表可能な学会の総数	26	100.0%

(複数回答)



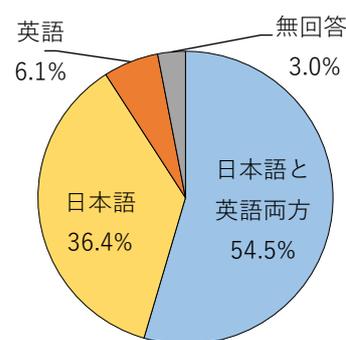
「国際セッション」の頻度	学会数	%
年 2 回以上	1	5.6%
年 1 回	9	50.0%
数年に 1 回	8	44.4%
計	18	100.0%



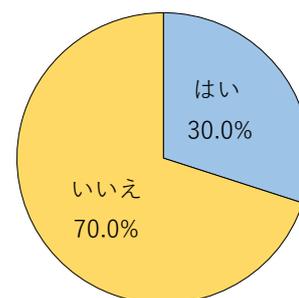
#### 4. 学会発行の学術雑誌の言語

日本語と英語両方 18、日本語 12、英語 2 で、英文雑誌の場合にインパクトファクターがついていると回答したのは 6 (最新のインパクトファクター：2.636、2.03、1.46、1.424、1.424、0.681) であった。

学術雑誌の言語	学会数	%
日本語と英語両方	18	54.5%
日本語	12	36.4%
英語	2	6.1%
無回答	1	3.0%
計	33	100.0%

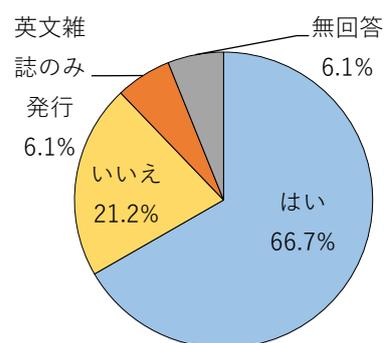


英語の場合の IF の有無	学会数	%
はい	6	30.0%
いいえ	14	70.0%
英語投稿可能な雑誌の総数	20	100.0%



邦文雑誌で英語での投稿も受け付けているのは 22 であった。

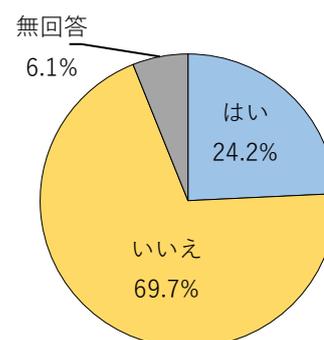
邦文雑誌での英語投稿の可否	学会数	%
はい	22	66.7%
いいえ	7	21.2%
英文雑誌のみ発行	2	6.1%
無回答	2	6.1%
計	33	100.0%



## 5. 若手研究者の海外派遣支援や外国人研究者の受入支援

若手研究者の海外派遣を支援する事業を実施していたのは 8 学会 (24.2%) であった。

若手研究者海外派遣支援事業	学会数	%
はい	8	24.2%
いいえ	23	69.7%
無回答	2	6.1%
計	33	100.0%



### 事業内容

#### 若手研究者短期海外研修

- ・ 2 年に一度、若手研究者短期海外研修を実施。コーディネータが研修施設と連絡をとり、3 日程度の研修を実施。学会は旅費を負担。

## 国際学会発表支援

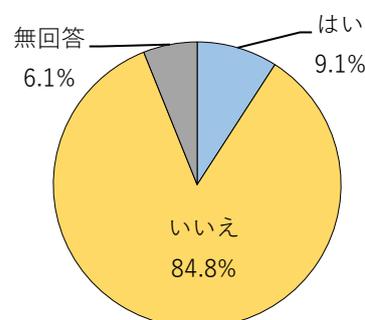
- ・ 5年に一度国際矯正歯科会議（International Orthodontic Congress）が開催されているが、2020年の第9回大会は横浜において開催予定であることから、そのプロモーションも兼ね2015年にロンドンで開催された第8回大会に、学会において選考された若手矯正研修医2名をアンバサダーとして派遣し国際感覚の涵養を図った。また、当学会では2019年度より学術振興基金を立ち上げ、将来的に若手矯正研修医の国際学会への派遣促進ならびに短期留学への支援を検討したいと考えている。
- ・ 国際歯科材料会議（IDMC）を通じて、発表の場を提供し、発表を促している。
- ・ 関連する海外の学術団体が開催する学術大会において、共同セッションを企画するなど、発表の場を提供し、発表を促している。台湾老年歯科医学会（中華民國老人口腔醫學會）との交流協定においては、本学会員が台湾老年歯科医学会（中華民國老人口腔醫學會）で発表する場合や研修会に参加する場合、参加費は無料という取り決めを交わしている。
- ・ アメリカ歯周病学会、台湾歯周病学会での大会発表に対する支援金

## 奨学金制度

- ・ 研究者育成ファンドによる奨学金制度を整備し、年間最大2名を採択している。採択者には100万円を助成している
- ・ 国際交流活動の活発化を目的として、関連国際学会で優れた発表活動を行った会員を対象として奨励金を交付するための制度を設けている。

外国人研究者の受入支援事業を実施しているのは3学会（9.1%）と少なかった。

外国人研究者受入支援事業	学会数	%
はい	3	9.1%
いいえ	28	84.8%
無回答	2	6.1%
計	33	100.0%



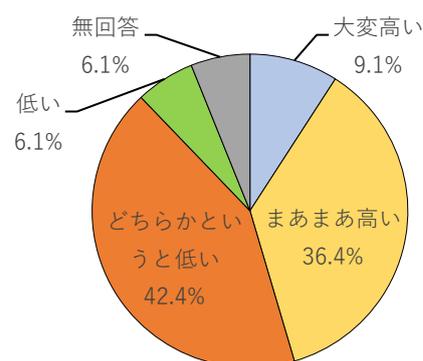
## 事業内容

- ・ 本会学術大会一般演題においても発表の場の門戸を開いている。国際歯科材料会議（IDMC）を通じて、発表の場を提供し、発表を促している。
- ・ 本会学術大会一般演題においても発表の場の門戸を開いている。台湾老年歯科医学会（中華民國老人口腔醫學會）との交流協定においては、先方の会員が日本老年歯科医学会で発表する場合や研修会に参加する場合、参加費は無料という取り決めを交わしている。

## 6. 学会における「国際的人材育成」の優先順位、「国際的人材育成」を阻害する要因

「国際的人材育成」の優先順位について聞いたところ、大変高い 3、まあまあ高い 12、どちらかという低い 14、低い 2 という結果であった。学会の国際的人材育成の優先度は「大変高い」と「まあまあ高い」を合わせて 45.5%であった。

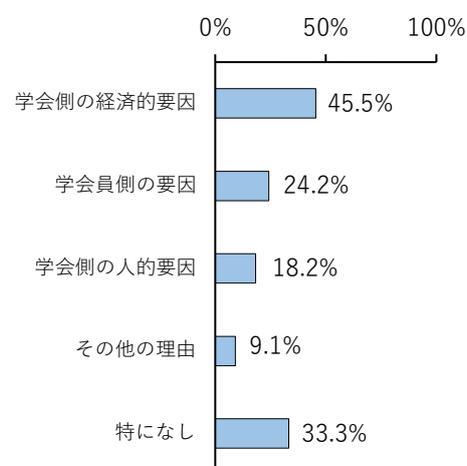
「国際的人材育成」の優先度	学会数	%
大変高い	3	9.1%
まあまあ高い	12	36.4%
どちらかという低い	14	42.4%
低い	2	6.1%
無回答	2	6.1%
計	33	100.0%



「国際的人材育成」を阻害する要因（複数回答可）については学会側の経済的理由が最も多かった。

阻害要因	学会数	%
学会側の経済的要因	15	45.5%
学会員側の要因	8	24.2%
学会側の人的要因	6	18.2%
その他の理由	3	9.1%
特になし	11	33.3%
計	33	100.0%

（複数回答）



「国際的人材育成」を阻害する要因：

#### 学会側の経済的要因

- ・ 国際的な活動を行うためには基盤となる活動資金が必要であるが、会員数がそれに見合うほど多くないため、会員数の増加を目標とした活動を行っているが、短時間での効果は目に見えるほどではない。
- ・ 学会の限られた予算の中で、国際的人材育成を含む各種の事業を推進するための資金確保が容易ではない。
- ・ 当学会には留学資金を提供する余裕はない。
- ・ 予算がない。
- ・ 国際学会発表補助金の不足
- ・ 国際学会参加の支援を行っているが、参加費のみの支援に留まっている。
- ・ 該当する資金がない。
- ・ 国際的人材育成をする程、資金に余裕がない。
- ・ 国際事業費の積立をしているが、若手育成のための余裕がない。
- ・ 国際的人材育成のためには、海外への留学や派遣が必要であるが、学会にそこまでの経済的余裕がない。
- ・ 過去には国際学会を開催したこともあったが、現在は、財政的な問題から、開催は困難である。人的交流についても同様である。

- ・ 学会の規模が小さいので、海外研修を行う予算が少ない。
- ・ 交流を積極的に行うだけの経済的予算的余裕がない。

### **学会員側の要因**

- ・ 本務とのバランス
- ・ 所属施設における臨床、研究に割く時間の調整が困難な場合が多いことが推測される。
- ・ 国内学会にあえて国際色は必要ないとする考えや意見も散見されるため、英語での発表等に消極的な姿勢が見受けられる。
- ・ 専門領域が主、教育は従との意識
- ・ 外国人の会員が非常に少ない。
- ・ 開業医が中心の学会であり、英語で講演や発表は難しい。
- ・ 若手研究者を募集しても、応募者が少ない。
- ・ 本件に積極的に取り組むより、より重要な案件が多く余裕がない。

### **学会側の人的要因**

- ・ 執行部の「国際的人材育成」に関するコンセンサスが十分ではない。
- ・ 教育分野での留学者、国際学会への参加者が非常に少ない。
- ・ 英語ができる人が少ない。
- ・ 学会の役員は大学関係者が多く、本務が多忙であり学会において国際的人材育成に携わることが困難である。
- ・ 海外学会の理事等との面識のある者が少ない。
- ・ 学会の人数に対して、海外の経験者が少ない。

### **その他の理由**

- ・ 我が国以外では歯科医による全身麻酔は一般的とはいえず、国際交流が困難であるため。
- ・ 学会を代表して国際学会に派遣する場合も、執行部の「国際的人材育成」に関するコンセンサスが十分ではないため、急な場合には学会の予算の配分が十分にできていない。
- ・ 各機関での教育者に関する評価が低い。
- ・ 現在まだ、学会内に奨学金等のシステムがない。

## 7. 「国際化」や「国際的人材育成」について、日本歯科医学会連合に期待すること

### 学会間の情報共有（交換）の支援や世界の情報提供

- ・ 国際的人材育成について、学会間の情報共有または情報交換の手助けをして欲しい。
- ・ 関連学会の国際化及び国際連携に関する世界の動向について情報を提供して欲しい。

### 財政や人的（語学堪能な人材）支援

- ・ 財政援助と専門の語学が堪能な人材の提供が可能であれば、ぜひお願いしたい。
- ・ 学術交流費用の補助、助成金など
- ・ 資金援助を希望する。
- ・ 海外関連学会との連携強化を目的とした事業への支援制度を導入して欲しい。
- ・ まず、人材育成に必要な資金を拠出していただきたい。

### 外国人歯科医師への資格付与など

- ・ 日本国の歯科医師免許を持っていない外国人にも、認定医、専門医に準ずる資格を与える様な働きかけをして欲しい。

### 優れた事例紹介、具体例の提案

- ・ 国際的人材育成の優れた事例を紹介して欲しい。
- ・ 本会の財政的な問題より、国際化を担う次世代の人材育成に憂慮しており、学会として喫緊の課題と位置付けている。何か良いアイデア等の具体的サポートを期待している。
- ・ 国際化を推進するうえで参考になるセミナーの開催があれば連絡が欲しい。
- ・ 学会レベルでの国際的人材育成については、留学支援という形よりも、国際共同研究の奨励、国際機関等への短期研修（インターンシップ）の機会提供などが実践的と考えられる。これらの用途を支援できる資金（基金）が充実されることが望ましい。また、学会の国際化には情報発信ツールとして英語 Web の充実が不可欠と認識している。当会でも現在英語 Web コンテンツの充実に向けて作業が進行しているが、日本歯科医学会連合の英語 Web においても傘下にある各学会の説明や情報の充実が行われるとなおよろしいと考える。諸外国の研究者は日本の学術学会の活動内容に興味関心は抱いているものの、学術学会の Web コンテンツは英語内容の情報が乏しく、Publication を提示しているだけに過ぎないとの指摘（批判）がある。学術大会に外国から講師を招聘するにしても、英語の

Web があると無いのとでは相手の当該学会へのインパクトも大きく異なる。このあたりの指針を提示していただくことは有用であると認識する。

#### **学会開催・補助**

- ・ 国際学会の開催や海外からのスピーカーの招聘に対する援助があるといい。
- ・ 日本歯科医学会連合で国際学会を主催いただければ助かる。
- ・ 英語のセッションを開催できると良いと思う。

#### **留学補助**

- ・ 留学先の選定、あるいは留学希望者の受け入れについて窓口的な役割を期待する。

## IV. 考察と提言

本調査に回答のあった会員学会においては、約 70%が国際関連委員会を有し、海外学会との協定締結、英文誌発行、英語での学会発表など、さまざまな方法で学会の国際化や海外との交流を行っていることが明らかになった。特に、約 80%の学会で英語での学会発表を可能としており、そのうち 90%以上が一般ポスターでの英語発表を可能としていることが判明するなど、学術交流において国際化に前向きであることが伺えた。

一方、若手研究者海外派遣支援や外国人研究者受入支援に関しては、積極的な取り組みは少なく、学会の国際的人材育成の優先度は「大変高い」と「まあまあ高い」を合わせて 45.5%であった。この要因としては経済的問題や人材不足などが挙げられていた。全体的に具体的取り組み（目標）を模索している段階にとどまっている状況が伺えた。

本調査に未回答であった会員学会(10)については状況が把握できず、今後各会員学会、また連合としてどのような人材を育成していくべきか、引き続き情報収集を行い、さらなる検討と取り組みが必要であることがわかった。

各会員学会がその設立目的に基づいて、質の高い学術研究を推進し、その成果を日本から海外に向けて発信することが重要であると思われる。

- ・ 学術研究において、国際交流事業を既に実施している会員学会には、事業のさらなる量的・質的充実が期待される。
- ・ 活動が国内に限定されている会員学会においては、今後、国際展開の可能性について検討し、可能な形で活動を開始することが望ましい。

上記を支援する目的で、国際活動委員会としては、今後の本委員会活動に関して以下のような対応が必要であると考えられた。

1. 積極的に国際展開を行っている会員学会の事例の紹介を行う。
2. 今後の学会活動を担う若手会員への国際関連の情報提供・意見交換のためのフォーラムを開催する。
3. 会員学会の活動を広く世界に発信するための HP の活用、英語での情報発信状況の把握などの支援を継続する。

## 学会組織について

1. 国際化・国際事業に関する委員会がありますか

はい いいえ

2. 1で「はい」の場合、委員会名、構成員数、活動内容についてお書きください

委員会名：

構成員数：

活動内容：

## 海外の学会との交流について

3. 海外の学会と協定を締結していますか

はい いいえ

4. 3で「はい」の場合、相手先学会名・国または地域をお書きください

学会名：

国（地域）：

5. 海外の学会とどのような交流がありますか（例：共同で学会を開催）

（ ）

## 学術大会について

6. 英語で発表できる一般発表，セッション，シンポジウム等が学術大会プログラムにありますか？

はい いいえ

7. 6で「はい」の場合、どのような演者が英語で発表することを想定していますか

該当するものすべてにチェックを入れて下さい

日本からの参加者



## 国際的人材育成に関する支援・優先順位・阻害要因について

14. 若手研究者の海外派遣を支援する事業を実施していますか

はい いいえ

15. 14.で「はい」の場合、その事業内容について簡単にお書きください

( )

16. 外国人研究者の受入を支援する事業を実施していますか

はい いいえ

17. 16.で「はい」の場合、その事業内容について簡単にお書きください

( )

18. 貴学会において「国際的人材育成」の優先順位は高い方ですか

大変高い まあまあ高い どちらかという低い 低い

19. 貴学会の「国際的人材育成」を妨げている要因があれば、該当するものすべてにチェックを入れ、具体的に記載ください

学会側の人的要因（例：育成者の不足）

学会側の経済的要因（例：留学資金提供元の減少）

学会員側の要因

（例：内向き志向、ライフステージと留学機会のバランス、本務とのバランス）

その他

特になし

20. その他、「国際化」や「国際的人材育成」について、日本歯科医学会連合に期待することなどがありましたら、自由にお書きください

( )

**日本歯科医学会連合国際活動委員会**

委員長：森尾郁子（東京医科歯科大学）

委員：富士谷盛興（愛知学院大学）

藤井万紀子（広島大学）

ステガロユ・ロクサーナ（新潟大学）

幹事：関奈央子（東京医科歯科大学）

担当役員：川口陽子（副理事長）